令和5年度

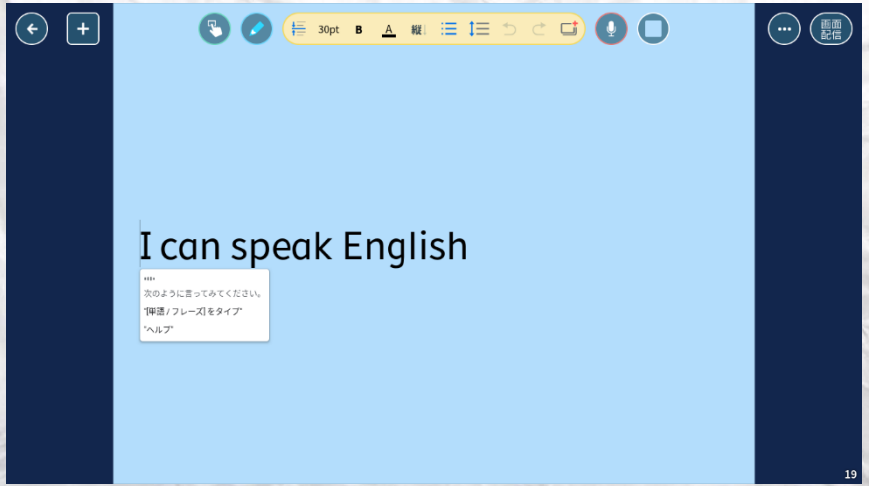
新地町立尚英中学校

ICT活用の取組

取組1

聞く、話す活動を通して正しい発音の獲得に向けた取り組み

音声入力機能を使った発音練習

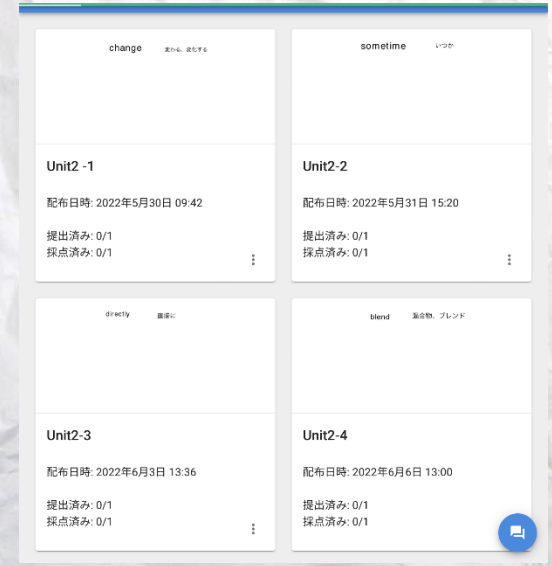


デジタル教科書を活用し発音を確認しながらの練習

取組2

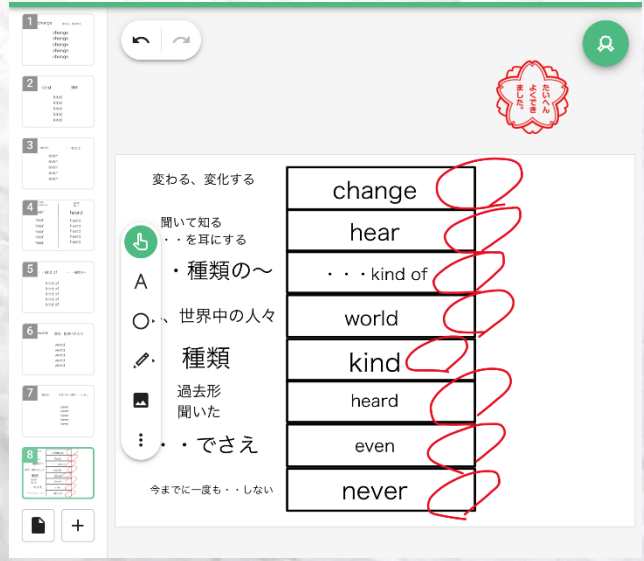
個の特徴に合わせた活用により、基礎力の向上を図る実践

単元ごとのシート



単語ごとのシート

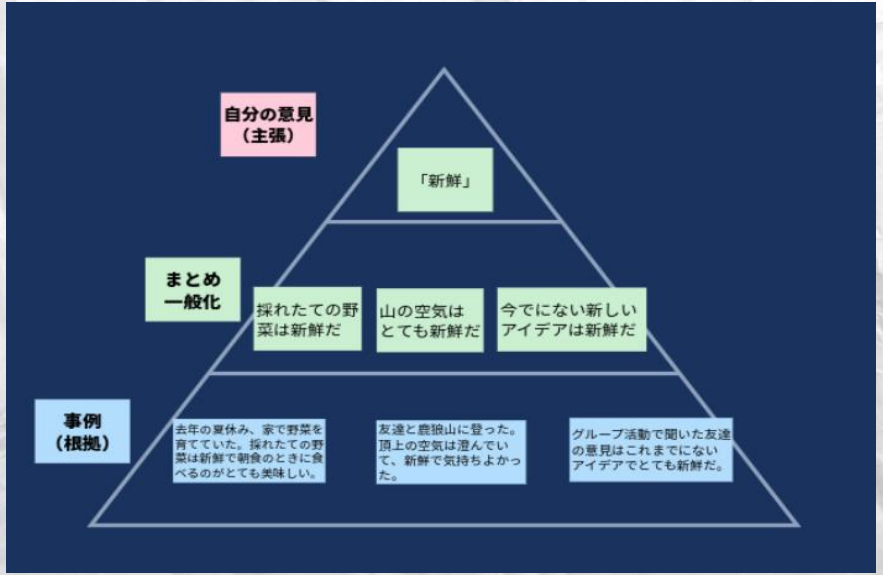
単元の単語の確認

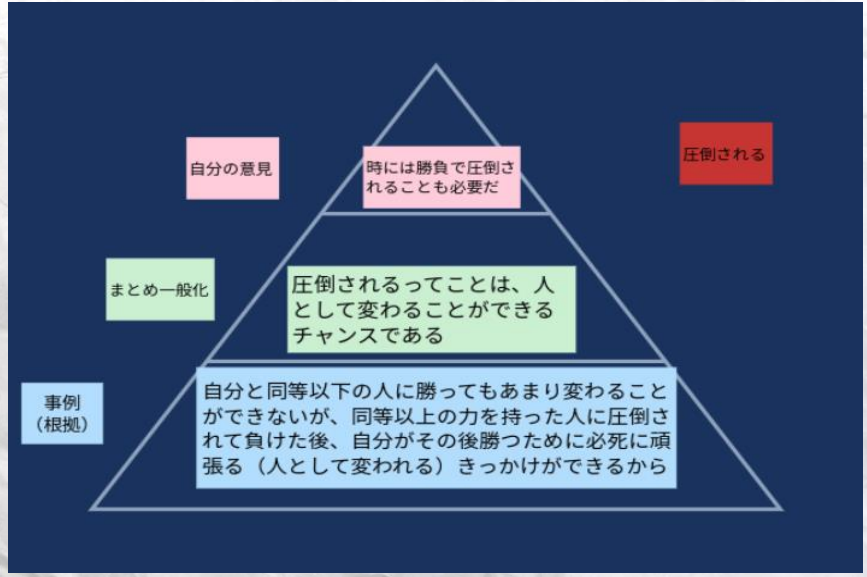


取組3

シンキングツールの活用による考えの形成

ピラミッドチャートを使い、自身の主張の根拠を想起させた



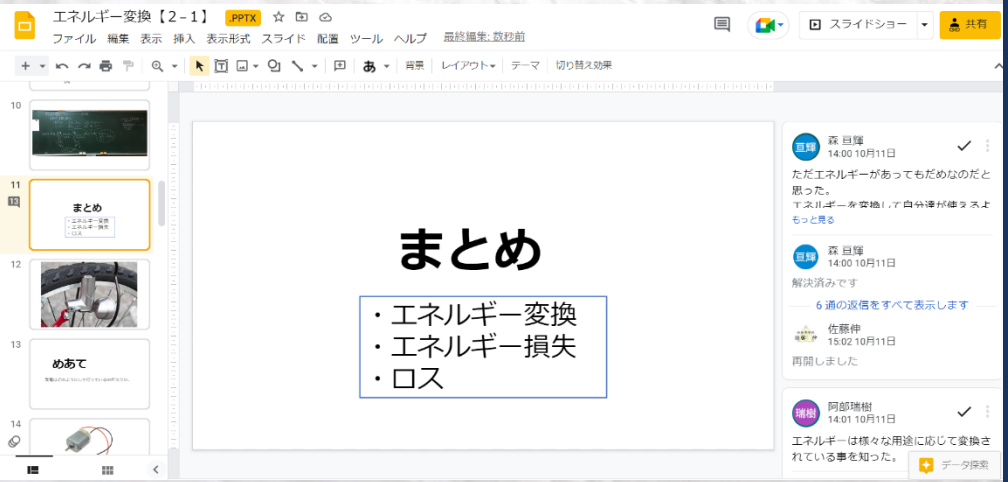


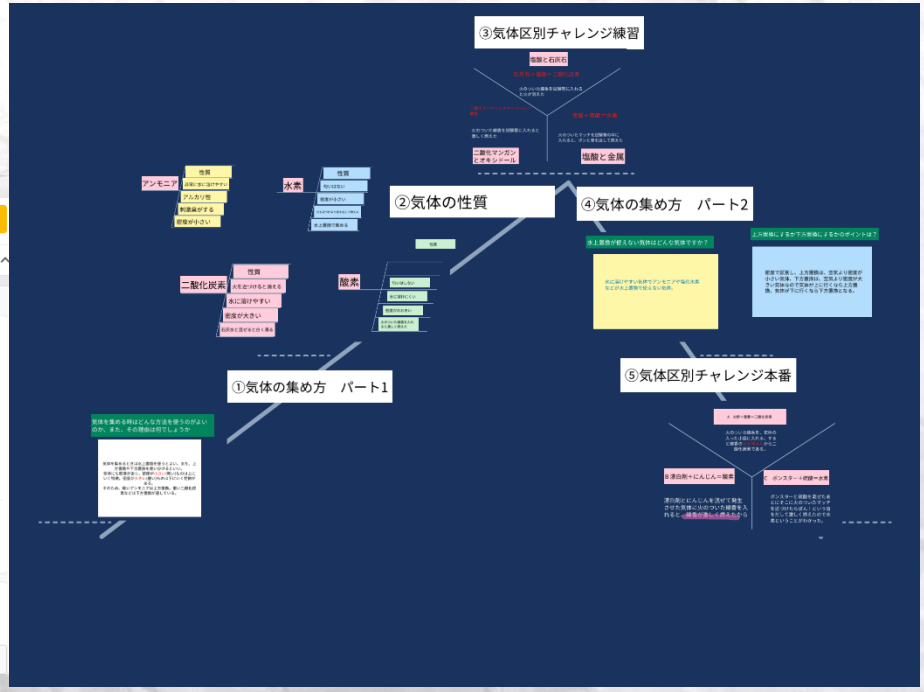
取組4

単元・題材を通したポートフォリオの作成による考えの形成

単元・題材を通したポートフォリオの作成

・授業のつながりが見えることで、考えの整理や新たな問いの形成につながった。

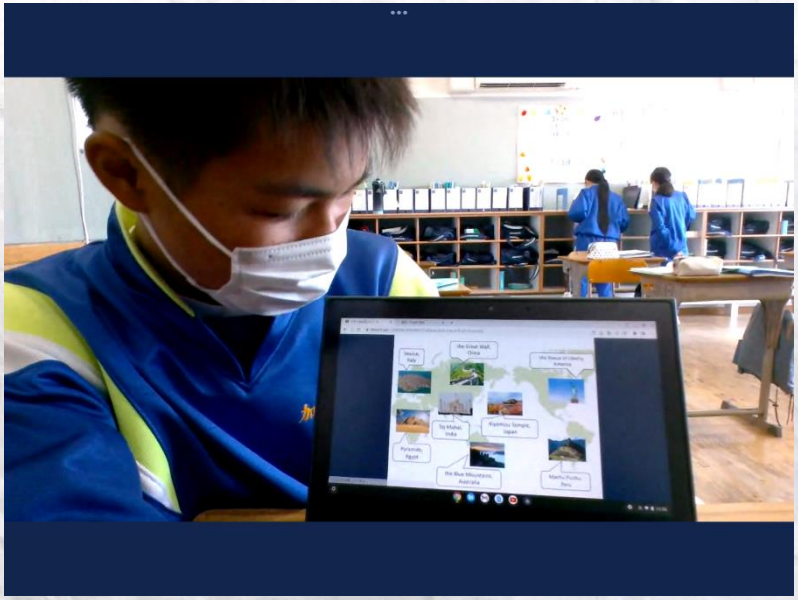




取組5

単元の学習をまとめ、表現する実践

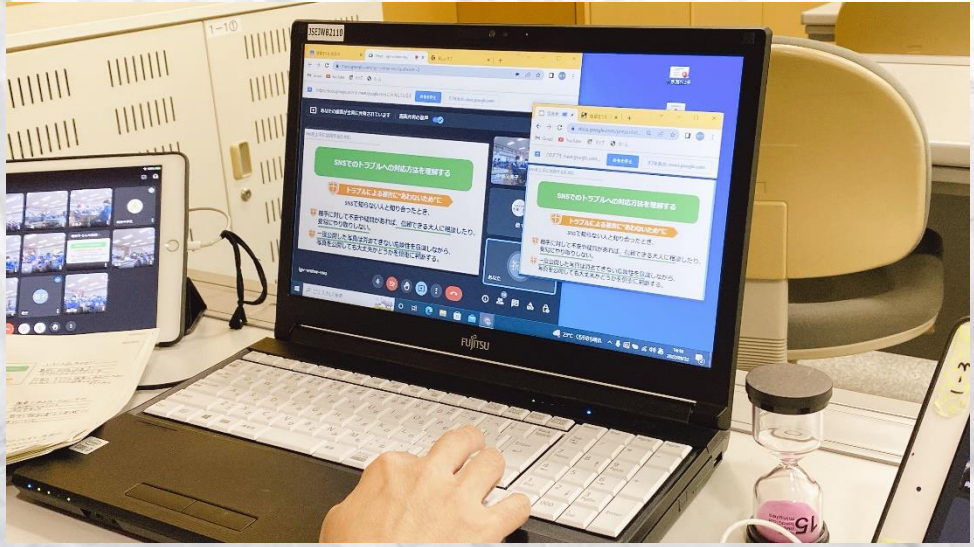
単元の内容を自身の言葉でまとめてプレゼンテーション



取組6

全学年合同による情報モラル教育

全校をweb会議ツールで繋ぎ、合同で実施した情報モラルに関する授業



活用上の課題・問題点

○　活用場面の視点
・生徒の意見を共有すべき場面とそうでない場面
　→活動に応じて精選しなくてはならない。
・タイピングの技能に差がある。
　→手書きしたものを撮影させるなど技能に応じた選択をさせるなどの配慮が必要。
○　情報モラル教育の視点
・自分事として捉えさせるためにはどうするか
　→事例等を紹介するだけでなく、生徒が自分事として捉えるための工夫が必要。
○　管理の視点
・どこまで自由に使わせるか
　→本校では、MDM等での管理を行っていない。自由に使わせることは重要だが、最低限の管理ラインをどこにすべきなのか。

令和５年度県中教研相馬支部　第一次研究協議会　情報教育部会資料

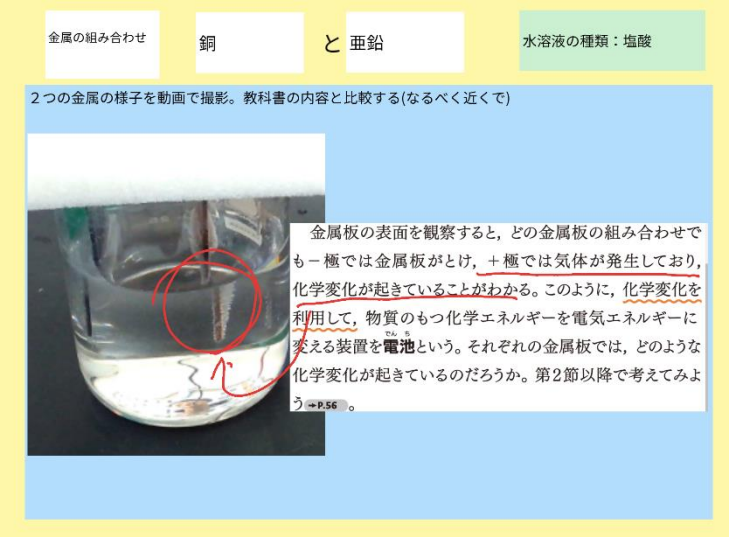
相馬市立中村第一中学校

1　ICT活用の好事例

本校は各教科の授業でロイロノートを活用した授業実践を行っている。実践を行ったなかでの好事例を紹介する。

①RSの視点と ICT 機器を活用した授業

相馬市はＲＳ（リーディングスキル）の向上を目指した授業実践を行っている。書かれている意味や内容を正しく読む力は、予測困難な社会の変化の中で豊かに生きていくために必要な力である。ＲＳとＩＣＴの両輪で授業力を向上できるように本校では取り組んでいる。理科の授業ではロイロノート上にデジタル教科書の文章を貼り付け、実験の動画と教科書の文書のどの部分が一致しているのかを確認する。教科書の文章が実験結果のどの部分に現れているのかを個別で考え、その後学級全体で共有する。



②ロイロノートと Shotcut（動画編集ソフト）を活用した授業

天気とその変化という単元のまとめに天気予報をするという活動を行った。できるだけ実際の天気予報に寄せるため、ニュースキャスター、編集者、台本作成など役割を分担し行った。天気を予測し、ニュースキャスターが報道する場面を動画で撮影し、Shotcut という動画編集ソフトで編集を行った。Shotcut はクロマキー合成が簡単にできるため緑色の壁を背景に撮影することで実際の天気予報をリアルに再現することができた。

2　ICT活用の課題

生徒用タブレット PC を活用する上での課題としてネットワーク上のトラブルがあげられる。例えば、総合学習の活動で１つの学年全体でタブレット PC を使うとなった場合に、ネットワークに負荷がかかってしまいどうしても遅延がでてしまう。このような場合は、タブレット PC をグループで使用するなどして工夫を行っている。また、現在の時点ではタブレット PC の持ち帰りを認めていないので、ロイロノート等で学習した内容を家庭で確認することが難しいことも問題としてあげられる。この問題は家庭でのネットワーク環境や使用することのできる ICT 機器の調査等の必要性があるため実現には時間がかかってしまう。

令和５年度中学校教育研究会相双支部第一次研究協議会情報教育部会資料

中村第二中学校　情報部会　矢吹吏志

学級活動（全校一斉学級活動）　学習指導案

段階	学習活動・内容	時間	形態	○教師の支援（主題・副主題との関連） ■ICT を活用する手立て評価（方法） 《各教室での担任の役割》
活動の開始	１　課題を把握する。 （１）本校の現状を把握する。 （２）本時の課題を把握する。 みんなが快く、情報機器やインターネットを利用した生活をしていくには何に気をつければよいか。	3 2	全校 全校	○　事前アンケートの結果をもとに、自分たちの身の回りには情報機器があるのが当たり前になっていることを伝える。 ○　SNS 等で情報の発信者側となったときのトラブル等を想起させ、安全な使用についての意識を高める。 ○　ロイロノートの画面配信の機能を使いながら、ことばと文字で情報を伝える。 《めあてを WB に書き、確認させる。》
活動の展開	２　課題を解決する。 （１）例として提示された１枚の写真を、公開してよいかどうか話し合う。 （２）ロイロノートでカードを受け取り、カード内の写真について、公開するのに問題があるかどうか話し合う。 （３）全校の意見を知り、自分たちの考えと比較する。 （４）自分たちのグループの意見を再検討し、必要があれば修正を図る。 （５）生徒同士で意見交換をし、他者の考えを知る。	3 6 6 5 10	班 班 班 班 全校	○　この１枚は明らかに公開できないものを準備し、カードの操作や話し合いのデモンストレーションとする。 《「１．４枚の写真を振り分けよう」を板書する》 ○　ロイロノートで配信されたカードを操作させながら、グループで話し合わせる。 ○　グループ内で意見の相違を体験させ、さらに、提出箱で集めた意見を共有することで、他グループとの差異を感じ取らせる。 ■　グループ活動や、ロイロノートの提出箱の機能を活用した全校の意見の共有をすることで、他者との意識の違いを確認できるようにする。（手立て１） 《「２．意見を再検討し、必要があれば修正しよう」を板書する》 ■　他のグループの意見と比較し、自分たちで一度結論づけた意見を再検討することで学習内容について、より深く考えることができるようにする。（手立て２） 《意見を発表したい班があれば、Googlemeet のスタンプで矢吹まで知らせる》 《生徒発表時のみ、音声・映像の通信をオンにし、Googlemeet で対話ができるよう機材の操作をする》
活動のまとめ	３　本時をふり返りまとめを行う。 （１）　本時のまとめをワークシートに記入する。 インターネット上に写真など個人情報になりうるものをのせる時は、個々の受けとりかたが異なることを考えなければならない。 （２）学級内で意見を発表し、本日の授業を振り返る。	10 5	個 学級	《本時で感じた他者との意見の相違を踏まえながら、自分の考えをワークシートに整理させる。》 情報モラルを守りながら、情報機器やインターネットを利用した生活をしていくにはどうすればよいか考え、表現することができる。（ワークシート） 《本時の内容を自分事としてとらえ、これからも様々なトラブルに巻き込まれないように、もしくは対処できるように、意識を高めさせる。》

令和５年度中学校教育研究会相双支部第一次研究協議会情報部会　事前提出資料

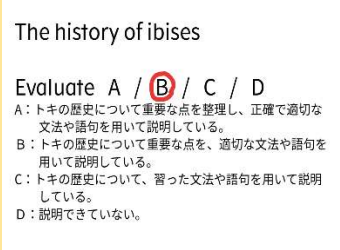
向陽中学校

①　ICT 活用の好事例について

＜総合（３年）「地域に貢献できる活動には どんなことがあるか」

1学期に震災・認知症・障がい者などの福祉講座が行われた。それをもとに私たちがこれからどんなことができるかを考え、それをロイロノートにスライド形式でまとめた。かなり短時間であったが、プレゼンの準備・発表をすることができた。

＜英語（３年）「パフォーマンステスト」



「話すこと」におけるパフォーマンステストを実施した。事前に課題を周知し、声を録音したものを提出させた。後日、英語科教員と ALT が点検・評価をした後、返却を行った。一人一人の発表に対し、個別でフィードバックを行うことができた。

＜音楽（３年）「実技テスト」

歌唱や演奏などの実技テストにおいて、ロイロノートを使って実施した。従来の方法であると、チャンスは1回きりだったのに対して、何度も録音し直せること、自分で聞いて修正することができることなどができ、生徒も前向きに取り組むことができた。

また、楽器の分類についてのワークシートを作成し生徒に行わせた。木管楽器、金管楽器、打楽器と書かれたそれぞれの枠内に楽器の名前の書かれたオブジェクトを移動させることで、楽器の分類についての理解を深めることができた。

②ICT 活用上の課題・問題点について

- ネット環境が不安定かつ制限がある。（体育館はつながらない）
- 教科によって ICT 端末の利用頻度に差がある。
- 機器のトラブルによって授業が止まってしまうことが多々ある。
- 授業で PC を利用する際、関係のないことを調べていても、把握しきれない。
- デジタルとアナログの使い分け（見極めが難しい）
- 家庭での ICT 機器の活用

（情報モラル、通信環境等さまざまな懸念点があり持ち帰りは行っていない。）

令和５年度　中教研相馬支部情報教育部会　第一次研究協議会資料　7/26

相馬市立磯部中学校　教諭　但野　雅和

〇情報教育実践事案

「美術科及び各教科における ICT の効果的な活用」成果と反省・今後の期待されること

タブレット PC
ロイロノートの活用
　完成作品も重要であるが途中経過を鑑賞し合うことで友達の作品のアイデアや技能を認め合う。

インターネットでの画像を描画やデザインの参考にさせる。
　描画力の高い生徒は画像を効果的に使うが、描くことが苦手な生徒は長い時間ダラダラと膨大な画像見続けることがある。作品のテーマ、アイデアスケッチをきちんとさせ、どんな画像が必要かを決めた上で利用させる。

鑑賞で､補助資料として作者プロフィールや美術館の HP さらに作品が描かれた時代背景を調べる。

大型モニター＋PowerPoint
　鑑賞に大きな威力を発揮する。画家等の作品鑑賞だけでなく生徒作品を撮影しておき、参考作品として鑑賞させることも効果的。

生徒作品をデジタル化（資料として保管・蓄積・評価時の確認）

今後の課題
　学校教育において、変わることなく指導を続けていかなければならない学習内容と同時に実社会の仕事の一端に触れるような内容の体験も必要であると思う。（これは全ての教科にいえるとだ思う。）ロイロノートのように同じアプリケーションソフトを９教科で使うのも使い方によっては意味があるかもしれないが、各教科の単元・題材によっては、教科の特質に合わせた専用アプリケーションソフトを使いこなすスキルが必要だと思う。民間企業の DX は急速に進んでいる一方で、公的な機関は何が遅れているか具体的に検証する必要を感じる。

令和５年度原町第一中学校における情報教育に関する実践例

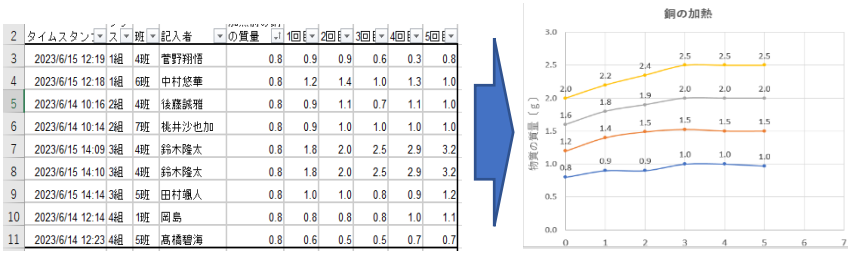
南相馬市立原町第一中学校

１　本校における ICT 活用の好事例

（１）授業における ICT の活用例

●理科の実験結果の集約⇒共有

　各班での実験の数値をそれぞれ Google スプレットシートに入力し，エクセルを通してグラフ化することで，実験結果を共有・可視化し，意見交換を行うことができる。



	タイムスタン	ス	班	記入者	の質量	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
3	2023/6/15 12:19	1組	4班	菅野翔悟	0.8	0.9	0.9	0.6	0.3	0.8
4	2023/6/15 12:18	1組	6班	中村悠華	0.8	1.2	1.4	1.0	1.3	1.0
5	2023/6/14 10:16	2組	4班	後藤誠雅	0.8	0.9	1.1	0.7	1.1	1.0
6	2023/6/14 10:14	2組	7班	桃井沙也加	0.8	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0
7	2023/6/15 14:09	3組	4班	鈴木隆太	0.8	1.8	2.0	2.5	2.9	3.2
8	2023/6/15 14:10	3組	4班	鈴木隆太	0.8	1.8	2.0	2.5	2.9	3.2
9	2023/6/15 14:14	3組	5班	田村颯人	0.8	1.0	1.0	0.8	0.9	1.2
10	2023/6/14 12:14	4組	1班	岡島	0.8	0.8	0.8	0.8	1.0	1.1
11	2023/6/14 12:23	4組	5班	髙橋碧海	0.8	0.6	0.5	0.5	0.7	0.7

●道徳の振り返り

　学期末，Google フォームを利用し，自分の中で印象に残っている授業や，自分の考えを改めることがでた内容，友だちとの意見交換を通して自分の考えを深めることができた授業などを記入し，道徳の振り返りを行っている。

※その他，道徳でのロイロノートを使用したシンキングツールの利用、音楽での合唱曲の投票，技術での道具・工具の安全な使用法の動画の共有なども行っている。

（２）授業外での活用

①いじめアンケート

・毎月末（保護者は２ヶ月に１回）に全校生徒を対象に Google フォームを利用しいじめアンケートを実施している。自由記入の他にチェック項目もあるため生徒も悩みを溜め込むことなく記入でき，迅速な対応につなげることができている。

②各種調査

・進路希望調査

・文化祭テーマの募集

・デジタル目安箱

など，従来紙面で行っていた調査を Google フォームを利用して行い，エクセルと連携させることで，即座に集計・結果を表示することができる。

２　ICT 活用上の課題・問題点

　e ライブラリの導入などもあり，家庭でも iPad を使用して学習に取り組みたいという声が多く上がっているが，個人情報の漏洩や端末破損の恐れがあることから，本校では持ち帰りを許可していない。今後更に ICT を活用した学習活動を充実させるために，情報モラル教育に力を入れつつ，iPad の持ち帰りを再検討する必要がある。また，生徒が iPad で学習した内容を出力できるプリンタや USB メモリ等があれば，iPad を持ち帰らずとも学習の続きを家庭で行えるため，出力機器の必要性を感じている。

南相馬市立原町第二中学校

「本校における ICT 活用の現状」

①「自校で成果の見られた効果的な活用の在り方」

（1）ロイロノート

・解法について吟味する場面で、解法の掲示・共有ができ、他と比較してより簡単な方法を見いだす活動ができた。（数学科）

・テスト前に学習の要点等をロイロノートに挙げておき、生徒が自主的な学習において、ポイントを確認するなど、復習に活用できた。（国語科）

・プリント等の提出物を写真で撮ることで、いつでも見返すことができるようになった。また、プリントを紛失したり、保管したりする必要がなくなった。（国語科）

・学校全体のアンケートをとる場面で、生徒がロイロノートを使い回答することで、結果を一覧で見ることができた。（現職教育）

（2）クラスルーム

・クラスルームのズーム機能を活用することで、電子黒板で放送委員会が企画した内容や動画を昼の給食の時間に生放送できた。

（3）キュビナ（Qubena）

・本時に学習する内容の問題を事前にキュビナで配信しておくことで、「まとめ」や「問題演習」として活用することができた。（数学科）

②「活用する上での課題・問題点」

・宿題や復習などに活用していきたいが、破損等のことを考えると気軽に持ち帰らせたりすることが難しい。

・うまくネットに接続できなくなるなど、すぐに対処できないような問題が起こる心配があり、使用するのに躊躇してしまう。

・保管庫の数が足りなく、特別支援学級は交流学級の保管庫で管理している実情がある。そのため、使用に不便さを感じることがある。（設備不十分）

南相馬市立原町第三中学校

ICT活用　実践例及び成果と課題

1　ICT活用事例

⑴ Apple TVを電子黒板のある教室全てに設置。教師や生徒がミラーリング機能を使いながらiPadを操作し、撮影、表示、操作、作成･制作、提出、共有、発表、記録などを円滑に行うことができる環境になった。

⑵ “Googleフォーム”を活用した事前・事後アンケート、授業や発表のフィードバックに活用。

⑶ アンケート結果や、生徒の感想・意見などをGoogleのスプレッドシートにまとめ、PDF保存→ロイロノート上で閲覧可能となり、生徒との共有をiPad上で図ることができた。

⑷ Keynoteを使って、よりデザインされたプレゼン発表を行うことができた。（ロイロノートを使ってのスライド発表も並行して。）

⑸ AIドリルアプリ“Qubena”を使った補充学習を行った。

2　ICT活用上の課題・問題点

⑴ ICT活用の世代間のギャップがある。本校では少しずつその差は無くなってきた　が、どの世代においても、チャレンジする気持ちを大切にしたい。

⑵ iPadやアプリ、Google suiteの使い方・操作に慣れるまで時間がかかる

→覚えれば、かかった分の時間を取り戻せる力となる。

⑶ 地区によって活用されているソフトが違うため、他の管轄から異動してきた教員は慣れるのに時間がかかる。

⑷ 授業でいかに効果的に作用しているかが不安。

⑸ 意思疎通が円滑にいかないときがある。

⑹ ネットサーフィンの規制が強い。調べ学習に不利益。

情報教育　中教研１次研資料　／　南相馬市立石神中学校

成果

○授業（ロイロノート）

・教科によっては積極的に使用している。導入や展開での題材の提示に活用(英語)したり、録音したものを評価に活かしたり(音楽)、まとめ振り返りを蓄積させて今後の学習に活かす(数学)等々。そのほかにも、総合学習の修学旅行や学習旅行のまとめ等で生徒に新聞を作成させたりアンケートの活用をしたりなどしている。
・PowerPoint の活用による授業の展開。
・生徒の考えを瞬時に把握。その考えを比較検討したりする。
・プレゼン資料等の作成

○学校での取り組み

・Google forms の活用で、全校生徒に対してアンケートをとる。
・会議の要項を Google drive にいれて、PDF データで共有することや学校だよりも web 上で見るようにさせることで紙の削減をしている。

○デジタル教科書

・教科によって入っており、授業での活用をしている先生が多い。

課題

○授業（ロイロノート）

・授業での使い方等がわからない。そのための研修会等ができれば…。
・使い方が限られてしまっている。提出する。資料の作成等。

○先生方が取り組みやすくするために

・先生方に使ってもらう機会を設ける。ロイロノートで作成したアンケートなどの配付を行うなど。
・各学年で情報担当の先生を決めることで、ＩＣＴの悩み相談を聞きやすくする。また、学年の先生方にお願いするときがあれば、協力して使っていただく。
・ＩＣＴ支援員との連携を図り、授業やそのほかの多くの場面でサポートしてもらう。

○みらいスクール＆Qubena の使用について

・現状、学校ではタブレットの持ち帰りを行っていない。家庭でタブレットを使わせることに不安がある。そのため授業の時間を割いて使用することは難しい。

まだまだ ICT を活用した授業や活動ができていないため、積極的に活用して、先生方で情報を共有して今後の活動につなげていきたい。

学校番号（１１）南相馬市立小高中学校

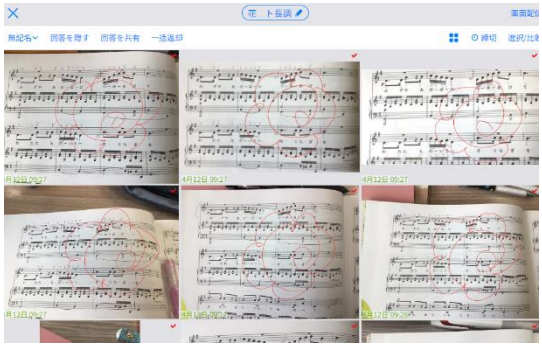
令和５年度　中教研相馬支部情報教育部会　第１次研究協議会資料

本校の ICT 実践について

〈1〉授業で

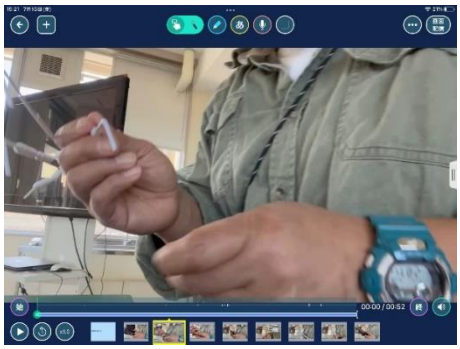
①ロイロノートでミニテスト

採点してすぐ返却→振り返りを行い再提出。



②ロイロノートで作業工程動画配信

個別に自分の進度に合わせて何度も確認。



③ロイロノートで実技チェック

ゆっくり再生して改善点をチェック。

〈2〉特別活動や家庭学習で

①学習の手引き、生徒会要項などを電子化

印刷・丁合の時間、紙の削減。紛失防止。

②生徒会アンケートや行事資料、反省提出

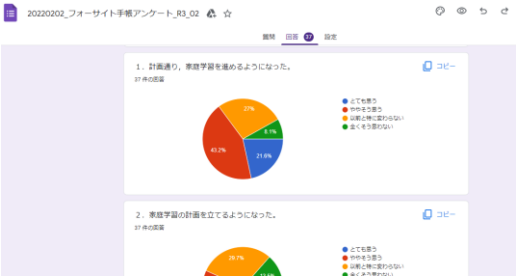
③夏期休業課題にニューコース学習システム

テキスト採用はなし。生徒の取り組み状況を確実に把握。休業中オンラインで生徒への支援。

〈３〉先生の事務効率軽減化と情報共有

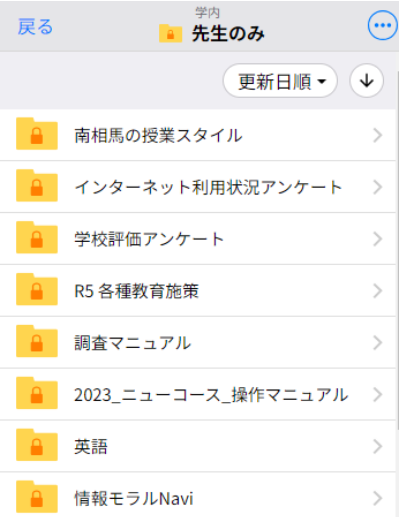
①学習アンケート等に Googleform を活用

印刷や集計の時間削減



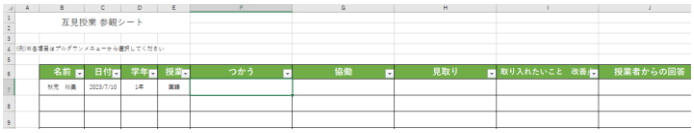
②会議資料、各種資料の PDF 化

印刷・丁合の時間、紙の削減。紛失防止。



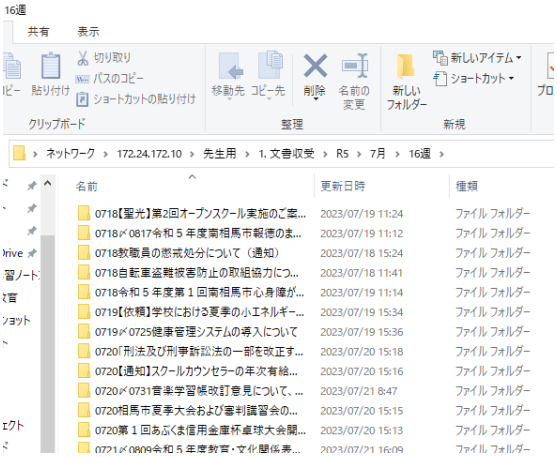
③現職での活用

互見授業の参観シートをスプレッドシートで共有、意見交流。



④文書収受フォルダの共有

各自必要な文書詳細は、フォルダから。



本校の ICT 活用上の課題・問題点

○朝から放課までずっと生徒はタブレットを携帯し、自由に使っている。全校生を対象に、４月の PTA 総会の裏番組で情報モラル講座を開催したが、まだまだ意識が低い。特に著作権や肖像権に関しては、日常から機会をとらえて継続指導が必要。

○使えないと困る、使われては困る両方の場面があり、校内でのフィルタリング設定が難しい。

○生徒側だけでなく、教員側の利点も考えた ICT 活用を更に推進していきたい。

→先生のゆとりを生徒へ還元できるように。

令和５年度　中教研相双支部　情報教育部会　資料

浪江町立なみえ創成中学校

１　ICT 活用事例

教科	ICT 活用の事例
国語	・発表練習を動画で撮り、改善練習。 ・発表原稿の作成。
数学	・プレゼンテーションの資料作り。 ・発表練習を動画で撮り、改善練習。
理科	・デジタル教科書の映像資料の活用。
社会	・調べ物学習。 ・デジタル教科書の映像資料の活用。 ・感想の共有。 ・ロイロノートで問題を出題。 →学びの履歴を記録し評価に。
家庭	・進行度合いを写真で撮って、共有。 ・教師のほうで進行度合いを把握。
美術	・調べ学習。 ・写真を撮影して、見本に。 ・ロイロノートを用いて、作品の鑑賞会・コメントの共有。
体育	・マット運動や高跳びの様子など動画で撮影→改善点を話し合い再び練習。
総合	・Pages やロイロノートを使用してチラシ・パンフレット作成。修学旅行のまとめ新聞形式とスライド形式で作成。 ・インタビュー活動の動画撮影。
その他	・修学旅行中の活動の様子をロイロノートで共有。 ・各教科で「すらら」を用いて、授業の内容の補強。 ・文化部で運動会の紹介動画の作成。 ・生徒も使用できるプリンターの活用→練習問題や発表スライドの印刷等

２　課題・問題点

・　情報モラル教育の充実したい。
・　教員の知識より、生徒の方がツールを使えるので、教員同士の研修会を実施したい。
・　ICT 支援員が週１勤務なので、何かトラブルが起きたとき、すぐに対処できない。
・　小・中同じ校舎にいるが、使用上のルール等が統一できていないので、連携していきたい。

授業における ICT 活用の例

葛尾中学校　山田昌典

使用場面（機能）	ツール	成果と課題
授業の管理	Google Classroom	○紙媒体で配布していたものに加え、様々な種類のファイルが共有できる。 ○オンライン授業でも使用可能 ○課題投稿時刻を管理できる。 △ログインできない等のトラブル △ドメインによっては機能が制限される。 △タブレット等でアプリを開かないと課題が見えないので、紙で渡す宿題より忘れられがち。
小テスト、ドリル	Google Form	○丸付け、成績の処理がほぼ自動で行える。 ○生徒の取り組み状況の把握が容易。 △単語アプリなどに比べると解くのに時間がかかる。 △問題の種類によっては出題できないものもある。
記録（振り返り）	Google Spreadsheet	○生徒の取り組み状況の把握が容易。 ○生徒同士で提示するのも容易。 △どこでも簡単に入力できる、と思うと後回しにしがち。＊
記録（音読）	録音	○漠然と行っていた音読にゴールを設定できる。 ○自分の発音を聞くことができる＊ ○家でも取り組むことができる。 △一斉に行うと聞き取りづらい＊
記録（単語、例文）	Genius Anki	○いわゆるマイ辞書の作成が容易。 △有料 △与えただけでは取り組まない。 △書く練習は改めて時間をとる必要がある。
板書・資料提示	電子黒板	△記録に残すものの精選が重要。 △資料の管理、共有が複雑になることが多い。 △後から見れる、と思うとその場で覚える習慣がなくなる？
文法の解説等	デジタル教科書	○短く、わかりやすい説明。 △教科書本文の解説も入ってしまう。

双葉中学校ＩＣＴ活用事例と課題

1　各教科等でのICT活用事例と課題・今後の見通し

	ＩＣＴ活用事例	・現在の課題 ・今後ＩＣＴを利用して実践したいこと
国語	・デジタル教科書を活用した学習 ･インターネットを利用した調べ学習 ・タブレットでレポート作成など	・作りたい作品の資料検索のための、検索方法。
社会	・デジタル教科書を活用した学習 ･インターネットを利用した調べ学習	・ネット検索に時間がかかり過ぎるので、必要な情報を取捨選択できる技能の習得 ・ＶＲを活用した地理の学習
数学	・google classroomを活用して、振り返り用のスプレッドシートを配布。教師と生徒がそれぞれ自由に閲覧・書き込みができるようにしている。	・生徒の考えを黒板に映し、比較する授業。 ・意見を出し合いながらまとめたり、分類したりする活動。
理科	・デジタル教科書を活用した学習 ・インターネットを利用した調べ学習	・ロイロノート等を活用した実験レポートの作成 ・iPadのフリーボードを利用した授業実践
英語	・プレゼン資料の作成(keynote,pages) ・デジタル教科書を使用した音声や本文の確認 ・Kahoot!を使用したクイズ形式の学習	・VRを活用し、目的場面状況をより意識できる授業展開
音楽	・インターネットを利用しての鑑賞や調べ学習	・iPadのガレージバンドを利用した様々な楽器による演奏・作曲など
美術	・Googleフォームを使用して、生徒からの授業反省や学習相談の確認 ・インターネットを利用しての鑑賞や調べ学習 ・フリーボードを利用したイラスト制作	・お絵描きアプリを使った絵画・イラスト制作 ・iPadのフリーボードを利用した授業実践 ・教師用のiPadが現在ないので整備が必要
保健体育	・実技の動画を撮影し、実施者にフィードバックをしている。	・体育館のWi-Fiの安定性 ・撮影した動画を遅延再生しリアルタイムでフィードバックする。
技術・家庭	・Googleフォームを使用して、生徒からの授業反省や学習相談の確認 ・プログラミングの学習など	・iPadのフリーボードを利用した授業実践 ・教師用のiPadが現在ないので整備が必要
道徳・学活	・教員があらかじめ作成したフリーボードを使用してみんなでiPadを囲みながら意見を出し合ったり、書き込んだりしている。	・フリーボードを共有して、各iPadから編集しながら授業を進められる取り組み
総合	・調べた内容をkeynoteでまとめ、発表者ノートを使用して発表原稿を作成する。アニメーションやバックミュージックを追加してさらに伝わりやすいスライドに仕上げている。	・iPadを使用して調べることに時間がかかりすぎているので、情報の取捨選択を瞬時にできるようになるための指導
その他	・学校行事における生徒アンケートや振り返りをgoogleフォームを使って行い、集計する。	・各教科のCAN-DOリストの入力、管理など

2　ICT活用上の課題・問題点

双葉中学校は生徒数１２名の小規模校なので特に大きな問題は起きていません。ICT環境を整えることが最優先事項になっています。ただし、ネット依存が心配される生徒は数名いて、本人・保護者と教育相談を行っている状況です。タブレットの持ち帰りもさせていますが、取り扱いの指導を今後も十分注意していくことが必要とされます。

富岡町立富岡中学校　日和田 聡

令和５年度相双支部中教研１次研 情報部会 持参資料

情報教育に関する本校における実践例等について

① ICT 活用の好事例

- Google Form で作成した単元テストを、Classroom にて生徒に配布している。自動で採点および集計ができ、記述式問題や表記ゆれは個別に採点し直すことで対応。紙の削減や業務効率化につながっている。
- 全職員に iPad を配付し Google ドライブから職員会議要項を見られるようにしている。Goodnotes5 を利用し書き込みも可能。
- 各教室に配付されたスマートフォンで撮影した写真が Google フォトの校内共有アカウントへ自動同期される。

② ICT 活用上の課題・問題点（情報モラル含む）

- 生徒側には情報モラルや情報活用に対する知識や経験が不足している。（個人情報の扱い、長時間利用、情報の取捨選択・真偽の見極め、著作権法など）
- 教師側には ICT 活用に対する意欲や活用能力が不足している。（ICT に対する興味・関心の不足、ICT 活用の忌避など）

令和５年度　中教研相双支部情報教育部会資料

楢葉町立楢葉中学校

1　本校のＩＣＴ活用事例

本校で主に活用しているのは、まなびポケット、schoolTakt、Google Workspace、Qubena です。各教科における実践例を紹介します。

国　語	・スライドを使って詩を作成させる。（例・中３「私を束ねないで」→「私を○○　しないで」）→詩にふさわしい画像やイラストを添えて共有ドライブに保存す　る。→お互いに見合う。→１番良かった作品を選び Forms に入力→上位作品を　発表する。 ・Jambord に全員の意見を集約させ、文章を書く際の参考にさせた。（人工知能の良い点、良くない点、課題、人工知能との付き合い方） ・ChatGPT に感想文を書かせた（電子黒板で提示）。→間違いや矛盾点を指摘した。
数　学	・証明問題のノートを級友と共有する。 ・練習問題の時間に Qubena を使用して、自分のペースで問題演習をする。
英　語	・共有ドライブを使った課題提出、グループによる共同作業 ・iPad のエアードロップを使用して、Key Note の課題を配信する。 ・英語でのビデオレターを撮影するという設定の活動において、実際に撮影をさせ、抽出したものを流し、良い点を共有する。
理　科	・デジタル教科書を使い、映像資料などを活用している。 ・schoolTakt で、遺伝の規則性などの授業を行った。
社　会	・班で考えを集約する際に Google Slide を用いてまとめる。 ・授業の資料を共有ドライブのフォルダに入れて、いつでも見ることができるようにする。 ・Google Forms の活用により生徒の実態把握をスムーズに行える。
音　楽	・歌唱の実技テストを自分で撮影し、共有ドライブに提出させた。 ・曲から感じ取ったことや聴き取ったことなどをスライド等に書き込み、生徒間で共有させた。 ・曲紹介をスライドに記入させ提出させた。
美　術	・ジャムボードを用いた鑑賞の授業 ・授業の振り返りシートを keynote を用いて、ペーパーレスを図った。
保健体育	・新体力テストや動画提出、知識のテストで Google Forms を活用した。 ・schoolTakt を活用し、デジタルワークシートを作成した。 ・校庭でビックスピーカーを用いて音楽を流すことで臨場感を演出させた。 ・授業内容や自己の動画、反省等を随時挿入し、個々で Google スライドを活用したデジタルワークシートを作成した。 ・アプリを活用して心拍数や投球スピードを計測している。

	・ドライブを使った課題提出、グループによる共同作業 ・Jamboard を活用した球技の作戦ボード
技術・家庭	・keynote を用いて、調べたことや自分の考えをプレゼン形式で発表させた。 ・共有ドライブにある作業の手順が分かる動画を見ながら、作業させた。
その他	・各種アンケート（読書調べ・スマホ利用等）を Google Forms で集計している。 ・学活、道徳、総合でも Google ドライブを活用している。 ・放送委員会で imovie を活用し、各種行事の振り返りを給食時に放映している。 ・修学旅行や遠足の班別行動時に GoogleForms を活用し、居場所や健康状態について把握した。

2　本校のＩＣＴ活用上の課題・問題点

・各教科での実践を教員間で共有する時間を確保したい。

・生徒への情報モラル指導の充実を図りたい。

・教員のスキルアップのための研修会を開きたい。

令和５年度中教研情報教育部会　広野中学校　資料

［　情報教育　］部会	部員（　近藤・松岡　）

今年度の部門の反省点について

○昨年度以上にタブレットを様々な場面・教科で活用することができた。これに伴い，生徒のタイピングやアプリの活用等の操作技術の向上が見られる。
○総合的な学習の時間などでのネット上の情報を活用する力が高く，情報リテラシーの向上も見られる。

●タブレット(タッチペン)の紛失や破損が多く見られる。
●タブレットの使用上のルール・管理を徹底することができていない。学習目的以外でのタブレットの利用が見られる。そのため，タブレットの持ち帰りも１，２学年では実施できていない。
●コンピュータ室の利用頻度が非常に少ない。

来年度の部門の改善点について

【生徒側】
生徒会活動による管理（教師でのみの管理から生徒同士の注意喚起・管理へ）を行なっていきたい。
～実施案～
・R5.1 月中に図書委員会にタブレットやコンピュータ室の管理・運営を依頼する。
（図書委員会顧問に確認済み，次年度に向けて情報関連の仮担当とする）
（次年度から正式にどの委員会が情報関連を担うかを検討しておく）
（生徒自身に問題点を認知させ，運営(改善)方法を考えさせる）
・問題点・改善点を確認し，必要であれば，タブレットの利用制限を作るように，教員へ依頼させる。（youtube の視聴制限，深夜に操作をロックするスクリーンタイムの導入など）
・次年度の前期生徒会総会にて，情報委員会の発足，または現委員会による運営の承認を得られるように準備する。（生徒会会則：第 33 条の改廃を，第 47 条に則って行う）
・ゆくゆくは，生徒が使用したいアプリ（プレゼンテーション・動画編集・学習など）の提案窓口としても機能させたい。

【教員側】
・タブレットの取り扱い方やスペック等の基礎知識を全教員で共有できるように資料の準備等を行う。（保護者向け資料も作成する）
・タブレット利用における保護者への承諾書の内容を充実させる。
（破損・紛失時についての対応や家庭内での使用ルールの協力についてなど）

その他	・タブレットのタッチペンは家庭負担にできないか。 →小中で取り扱い方をそろえる必要があるため，小中連携運営委員会で協議する。 （破損・紛失時についての対応も同様）

広野中学校　学習用タブレット端末等利用規程

1. 目的

学習用タブレット端末等の利用に伴う，情報の漏えい・改ざん・破壊・紛失を防止し，学習ツールとして有機的に活用する。

2. 所有者及び管理責任者

【所有者】……広野町教育委員会　　「管理責任者」……広野中学校長

3. 対象者

広野中学校に在籍する生徒

4. 対象機器

広野町教育委員会が貸与する学習用タブレット（iPad）　※　カバー，タッチペンを含む

5. 利用期間及び通信料

○　利用期間は，各年度の始業日から終業（修了）日までとする。学年ごとに年度終了時に学習用タブレットを回収し，次年度まで管理する。使用していたタブレットは次年度でも同じものを使用する。　※　３学年で使用していたタブレットは，次年度の１学年が使用する。

○　年度の始業時に「広野町タブレット利用届」を，年度の終業時に「広野町タブレット返却届」への記入・提出を保護者へ依頼する。

○　学習者用タブレットの利用に係る費用は無料とするが，家庭での通信料は家庭での負担となる。

6. 利用方法

○　学習者用タブレットの使用場面は，授業中及びその他教師の指示・監督があるとき，休日中の家庭学習となる。**平日の持ち帰りは原則禁止とする。**

○　昼休みや放課後等での自主学習及び授業の準備のためにタブレットを使用する際は，必ず指導者が監督につくこと。

○　学校内でのタブレットの保管は，各学年の保管庫（充電ボックス）を使用する。学校内でタブレットを使用しない際（放課後を除く）は，保管庫に置いておく。

平日中

1日の各場面	登校時	１校時以降	清掃前
	登校後は原則，保管庫に入れる。 ただし，各学年・１校時の指導者の監督のもとで使用することは可とする。	授業の指導者の指示・監督のもとで，保管庫から取り出し，使用する。 使用が済み次第，必ず保管庫へ戻す。	清掃前に保管庫に入れる。

休日前

1日の各場面	登校時	１校時以降	放課後（休日前）	家庭内（休日中）
	登校後は原則，保管庫に入れる。 ただし，各学年・１校時の指導者の監督のもとで使用することは可とする。	授業の指導者の指示・監督のもとで，保管庫から取り出し，使用する。 使用が済み次第，必ず保管庫へ戻す。	清掃終了後の下校の準備の際に，タブレットを保管庫から取り出しておく。	指導者が指示した課題及び自主学習に活用する。

○　年度の始めにgoogleアカウントを取得していない生徒の分を申請し，googleクラウド上の機能を使用できるようにする。（申請・アカウント管理者：ＩＣＴ担当）広野小で取得済みの生徒も，同じアカウントを中学校では使用できないため，再取得する必要がある。

○　次年度での利用にあたって，同じタブレットを使用する際は年度内にデータのフォーマットをする必要はない。

○　タブレットの充電は基本的には保管庫で行うが，長期休業期間等にＡＣアダプタ，充電ケーブル等を貸与する場合は，各自紛失しないよう管理すること。

○　カバーを必ず装着して使用すること。

○　本体及びカバーに添付されているＩＤシールを剥がしたりシールに文字を書いたりしないこと。
○　ロック機能を常に有効にすること。各本体に割り振られたパスコードを第三者に漏れないように注意すること。
○　他人とタブレットの貸し借りはしないこと。

○　家庭内及び公共施設（公民館や役場庁舎内）以外のフリーWi-fi（駅やコンビニエンスストア）は，情報漏えいの危険があるため，利用しないこと。校外活動で Wi-fi を利用する場合は，指導者の指示にしたがって利用すること。
○　タブレットの「設定」を変更する場合は，指導者の指示・監督のもとで行うこと。

7. 危機管理事項

○　タブレットに障害や事故等の発生を確認した場合には，速やかに学校から広野町教育委員会へ連絡すること。
○　管理者の許可を得ることなく，アプリケーションのインストール及びアンインストールの指示・運用をしないこと。必要な場合は管理者に申し出ること。（インストールの場合はソフト名・開発企業等の情報等も確認する）
○　タブレットのパスコードは学校で一括管理・設定する。
○　歩きながらタブレットを使用させないこと。
○　学習用にふさわしくないインターネットの利用を禁止するとともに，長時間の利用は依存症等を誘発する恐れがあることを指導すること。
○　**各学年の副担任は，朝読書，給食の時間，帰りの会前に担当学年のタブレットが保管庫にすべて入っていることの確認・指導・施錠を行う。**
○　いかなる場合も学校の許可なしに他の情報機器（家庭用ＰＣ，ＵＳＢ）を接続しないこと。
○　故障（破損を含む）の場合は，速やかに教育委員会へ報告し，保証期間内であれば教育委員会でリフレッシュ品との交換が可能である。保証期間外の場合は，学校の修繕費により修理・交換となる。学校から委託業者（福島中央計算センター）に依頼し，その旨を教育委員会に報告する。ただし，生徒及び保護者による紛失の場合や端末の改造，正規以外での修理（液晶交換等）を行った場合には，本体価格と同額の有償修理とする。（付属のタッチペンについても同様の対応とする）

令和5年度　情報教育全体計画

生徒の実態

○積極的に情報機器を活用しようとする。
○タイピングやアプリの活用等の操作技術の向上が見られる。
・スマホの所持率は，7～8割程度，そのほとんどがSNSを利用している。
●タブレット(タッチペン)の紛失や破損が多く見られる。
●学習目的以外でのタブレットの利用が見られる。

学校教育目標

1　自ら考え，意欲的に学ぶ生徒
2　自他を敬愛し，互いに高め合える生徒
3　心身ともに健康でたくましい生徒

重点目標

目標をもち
ともに学び
成長しよう

情報教育の重点

教育の情報化を推進するとともに，生徒の情報活用能力を育成する。

国・県・町の方針

◎国・県
・GIGAスクール構想を踏まえた環境整備(1人1台の学習用端末の導入)
・デジタルとリアルの双方の良さを生かした学びの変革（福島県版ICT活用ハンドブック2022の作成）
◎町
．ICTの効果的な活用による学力向上の推進(授業支援クラウド，AI教材)
・教師のICT活用スキルの向上(ICT支援員の配置，推進校への訪問)

教師・保護者の願い

・情報社会に適応できる能力を育成する
・情報機器の基本的な操作を身につける
・情報機器を適切に・有効に・節度を守って活用する
・有用な情報を選択する
・ネット社会における正しい判断力を身につける

情報教育指導の力点

＜情報活用の実践力＞
・ICT機器の操作能力及び効果的な活用能力
・デジタル教科書，授業支援クラウド，AI教材の有効活用
＜情報の科学的な理解＞
・情報の必要性の理解
・有用な情報を選択する能力
＜情報社会に参画する態度＞
・情報モラル指導計画に基づいた系統的な指導
・保護者への情報モラルの啓発

家庭・地域の実態

・家庭でネットにつながる環境ができつつある。
・タブレットを持ち帰っても学習目的以外の利用が多く，保護者も注意，管理し切れていない様子である。（その後，改善が見られなかったため，1,2学年の持ち帰りは中止となった）

生徒の資質・能力の段階

資質・能力	第１学年	第２学年	第３学年
(1) 知識・技能	情報機器の基本的な知識と技能を身につけさせる。	情報を主体的に収集することができる能力を身につけさせる。	必要に応じて，情報を発信・伝達できる能力を身につけさせる。
(2) 思考力・判断力・表現力等	必要に応じて，情報を処理，表現，創造することができる能力を身につけさせる。	問題の解決等に向けて，情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけさせる。	自らの情報活用を評価・改善できる能力を身につけさせる。
(3) 学びに向かう力・人間性等	情報機器をルールを守って利用する習慣を身につけさせる。	情報技術の社会への様々な影響を理解し，情報モラルを守る態度を身につけさせる。	望ましい人間関係・情報社会の創造に参画しようとする態度を身につけさせる。

指導内容と場面

分類	(1) 知識・技能	(2) 思考力・判断力・表現力等	(3) 学びに向かう力・人間性等
情報機器の利用	情報機器の基本的な構成・機能を理解し，操作することができる。【各教科・総合・学級活動】	情報の収集や処理の方法を通して，情報を適切に処理することができる。【各教科・総合・特別活動】	利用できる情報機器を破損・紛失等が無いように，丁寧に扱おうとする。【各学級】
	学習内容やグループの考えをプレゼンテーション等を活用してまとめることができる。【各教科・総合】	実験や観測データを処理するために，情報機器を効果的に活用することができる。【理科・総合】	情報や情報技術をより良い生活や社会づくりに活かそうとすることができる。【各学級】
	インターネットやアプリの利用方法を理解し，操作することができる。【各教科・総合・学級活動】	情報を伝えるために，丁寧で分かりやすい表現をすることができる。【各教科・総合・学級活動】	情報及び情報技術の活用を振り返り，効果や改善点を見いだそうとすることができる。【各教科・総合・学級活動】
責任感 情報モラル	情報モラル・マナー，また情報の危険性を理解している。【技術家庭・道徳・学級活動】	SNSやリモート交流では，双方向に利用者がいることを理解し，相手の立場を考えて利用することができる。【技術家庭・総合】	個人情報やプライバシーの大切さや責任を理解し，正しく効果的に利用しようとすることができる。【各学級】
	IDやパスワードの重要性を理解し，適切に管理することができる。【技術家庭・学級活動】		自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえて，尊重しようとすることができる。【各学級】
	写真やイラスト，音楽などには著作権肖像権で保護されていることを理解している。【各教科・総合・学級活動】	フェイクニュースなどの問題を理解し，情報を正しく取捨選択することができる。【各教科・総合・学級活動】	1つの情報にだけとらわれずに，多角的に情報を収集しようとすることができる。【各教科・総合・学級活動】

いいたて希望の里学園

令和５年度　中教研相双支部情報教育部会　第１次研究協議会資料

○各校における実践・取り組みについて

１　ZOOM を用いた授業参加の促進

ケガで学校に来ることができない生徒の補助の一つとして、ZOOM を用いた遠隔授業がある。生徒の体調に合わせて柔軟に授業を行うことで、生徒の継続的な授業の参加が可能になった。

２　タブレットで印刷

Wi-Fi を経由して、各教室のプリンターと接続することで、生徒自身が必要だと思ったものを生徒自身が印刷して使用することができる。

３　便利なソフト、サイト

・熊本市教育委員会が提供するデジタル教材

小学校メインの内容になっているが、心情円など中学校でも使えるオンラインの教材が多数ある。→

・Canva

創造的なプレゼンテーションや文書作成が可能になる。著作権など考えずに作成することができるので、生徒のみならず、教師にもおすすめ。文書を共有することで、オンライン上で共同編集もできる。教員証明の手続きをすれば無料で使用できる。→

４　部活動への活用

本校では、陸上部での活動にもタブレットを活用している。走りのフォームをスローで撮影し、その場で見せたり、それをロイロノートで共有して蓄積したりすることで、自分の動きを確認できる。また、過去の自分の動きを比べて変化を実感することができる。見学の生徒に撮影係を任せてもよい。

○本校における課題について

１　今後の脱ロイロノートの流れ

本校はロイロノートを導入しているが、学校によりまちまちである。飯舘村では、今後もロイロノートを導入し続けるかが不透明であることから、県から推奨されている Google アプリケーションの導入に添えるようにしていく必要である。

７月に福島大学附属中学校で行われた GoogleWorkspace を用いた授業研究では、Google クラスルームを用いながら

・導入：Google ドキュメント
・実験：Google スライド
・結果のまとめ：Google フォーム
・振り返り：Google スプレッドシート　　参考資料→

というように、Google のアプリケーションで統一して授業を行っていた。

Google のアプリケーションは無料なため、導入のハードルは低い。今後、それらを活用できる環境を整備していきたい。

令和５年度中学校教育研究会相双支部第一次研究協議会情報教育部会　提出資料

大熊町立 学び舎 ゆめの森　相沢健生

①　本校のＩＣＴ活用の好事例

本校では、ＡＩ型学習教材「キュビナ」や校務支援・学習支援アプリ「ツムギノ」を主に活用している。「キュビナ」は主要教科を中心に授業や家庭学習で活用している。具体例として、児童生徒が自らめあてを考え、個に応じたドリル学習や分からない問題を中心に教員が寄り添い、学習状況に合わせた指導を行っている。「ツムギノ」では、児童生徒が週に１回、時間割を作成することや、授業の振り返りを行うことで学びのマネジメント力を育成している。また、「ツムギノ」で保護者との情報共有を図り、（宿題の連絡や、学習の様子の共有など）個に応じた指導につなげている。夏休みの学習でも「ツムギノ」と「キュビナ」を活用しながら、自分自身の学びをマネジメントし、夏休みの計画を立てることができた。

本校のＩＣＴ活用の成果として、個別最適化された学びを追求し、実態に応じた質の高い学習につなげることができたということが挙げられる。一斉授業の課題にも挙げられている、「分からないことをそのままにしてしまう」ということもなく、自分の課題を自身で見つけ、課題解決に向けて自ら学ぼうとする姿が見られた。

「ツムギノ」を使って時間割を自分自身で作成したことにより、課題探求の時間を確保しながら、児童生徒の学びのマネジメント力を高めることにつながった。また、授業の振り返りを「ツムギノ」で行い、蓄積していくことで単元の見通しや復習・評価等にもつながり、有効に活用できた。

②　本校のＩＣＴ活用上の課題・問題点

本校のＩＣＴ活用上の問題・課題点として「児童生徒の授業と休み時間の切り替え」と「１年生から９年生までのルールの共有・統一化」があげられる。授業でも休み時間でもタブレットを使用しているため、切り替えができない児童生徒もいる。本校では、もう一度ＩＣＴ活用のルールを確認し、授業と休み時間の切り替えができるように心掛けている。

本校は義務教育学校であり、小学校１年生から中学校３年生までがともに学んでいるため、ＩＣＴの活用に関してなかなかルールの統一が図れず、共通理解がされていない点もある。特に情報モラルに関する意識や、タブレットの使用時間などについては、学年ごとに差が出ている。外部とのＳＮＳトラブルなどはないが、調べ学習の際の正しいタブレットの使い方や、目的に沿った使い方等について継続して指導していく必要がある。

今後はもう一度、ＩＣＴの活用の目的を教員同士、児童生徒と共有し、タブレットを学びのマネジメント力を育成するための１つの手段として有効に活用できるようにしていきたい。また、義務教育学校の良さを最大限生かし、「キュビナ」や「ツムギノ」などのツールを用いて、異学年で学び、教え合う環境作りの１つの手段として、タブレットを有効活用していきたい。

令和５年度中教研相双支部一次研情報教育部会資料

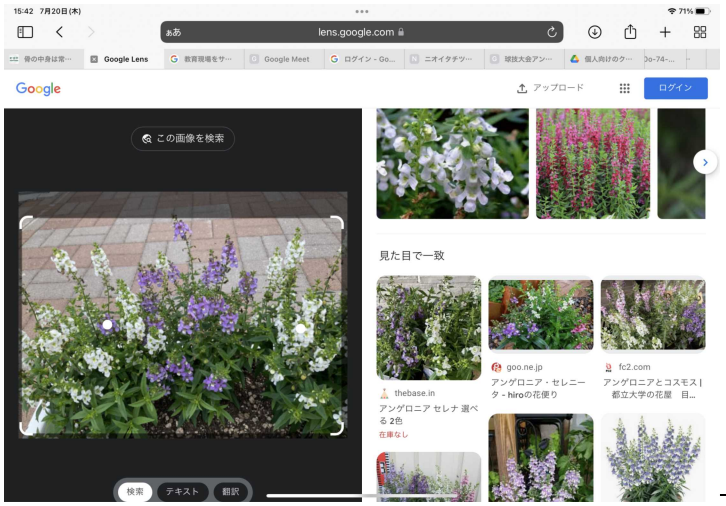
川内村立川内小中学園

（１）　本校 ICT 機器活用の特徴

・１人一台については iPad を活用中
　→ iPad ならではの不便さ・アプリ等の導入の手続きが煩雑
・アプリの活用としては、「ロイロノート」が中心
　→優れた情報共有能力と、手軽な使用感・どの分野でも活用法が見つかる
・ドリル学習としては、e ライブラリが導入されているが、使用頻度は教科によって
・各教室に大型モニタと AppleTV →教科教室制なので活用頻度は高い
・理科では iPad を測定器具としても活用→電流計・電圧計・pH 計・温度計など
・ポスター作成やレポート作成などは Pages を活用

（２）　実践例

① google レンズを使った植物図鑑の作成



← Google の検索窓からすぐにアクセスできる。カメラで撮った写真をすぐに検索、野草等の検索正答率も水準以上で、どの機器でも使える。

植物の名前　ヒメオドリコソウ

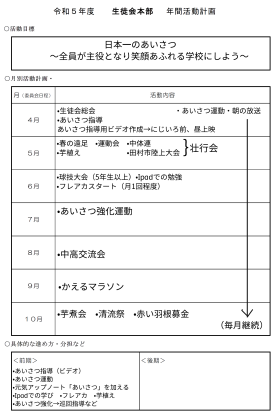
被子植物　双子葉類
シソ科　オドリコソウ属
特徴　花の形→ピンク色の小さい花
　　葉の形→対生するしわしわのスペード型の葉

エピソード　もともとはヨーロッパにあった花

↑

生徒には植物図鑑（本）も併用させ、校内の野草図鑑を作成。個人的にはこの程度の簡単なものをたくさん作らせる方が、生徒の達成感も高いと思った。

② 　生徒会各委員会→学級審議→生徒会総会をシームレスにつなぐとともに、PDCA サイクルを回す「ロイロノートの活用」



令和５年度　生徒会本部　年間活動計画

○活動目標

日本一のあいさつ
～全員が主役となり笑顔あふれる学校にしよう～

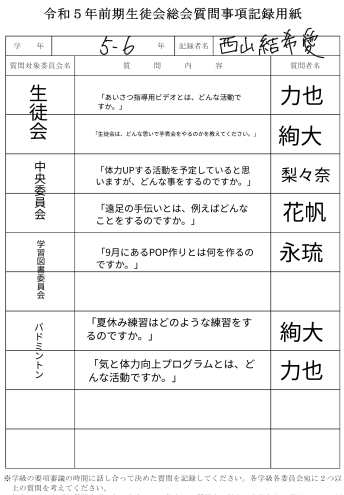
○月別活動計画・

月（各委員会日程）	活動内容
4月	•生徒会総会　・あいさつ運動・朝の放送 •あいさつ指導 あいさつ指導用ビデオ作成→にじいろ前、昼上映
5月	•春の遠足　•運動会　•中体連 •学植え　•田村市陸上大会　} 壮行会
6月	•球技大会（5年生以上）•ipodでの勉強 •フレアカスタート（月1回程度）
7月	•あいさつ強化運動
8月	•中高交流会
9月	•かえるマラソン
10月	•芋煮会　•清流祭　•赤い羽根募金　（毎月継続）

○具体的な進め方・分担など

＜前期＞	＜後期＞
•あいさつ指導（ビデオ） •あいさつ運動 •礼気アップノート「あいさつ」を加える •ipodでの学び　•フレアカ　•芋植え •あいさつ強化→巡回指導など	

←活動計画の作成、ロイロノート上で共有し、そのまま総会の資料とする。



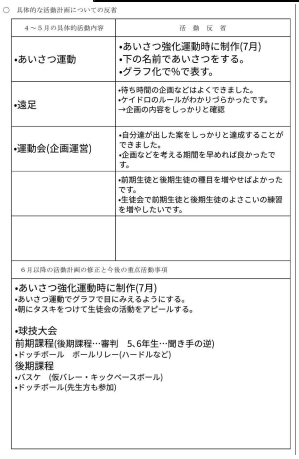
令和５年前期生徒会総会質問事項記録用紙

学　年	5-6　年	記録者名	西山結希愛
質問対象委員会名	質　問　内　容		質問者名
生徒会	「あいさつ指導用ビデオとは、どんな活動ですか。」		力也
	「生徒会は、どんな思いで学芸会をやるのかを教えてください。」		絢大
中央委員会	「体力UPする活動を予定していると思いますが、どんな事をするのですか。」		梨々奈
	「遠足の手伝いとは、例えばどんなことをするのですか。」		花帆
学習図書委員会	「9月にあるPOP作りとは何を作るのですか。」		永琉
バドミントン	「夏休み練習はどのような練習をするのですか。」		絢大
	「気と体力向上プログラムとは、どんな活動ですか。」		力也

※学級の要項審議の時間に話し合って決めた質問を記録してください。各学級各委員会宛に２つ以上の質問を考えてください。
※総会で取り上げる質問事項になりますので、代表して質問する児童・生徒名も必ず記入してください。

本校では、前期課程（小学生）も生徒会に携わる。生徒数が少ないため、複数年で要項審議、質問事項はリアルタイムで共有する　↗

活動の反省もロイロノートで共有するとともに、各委員会ごとに、反省を生かし次月の活動計画に修正を加えていく。　→



○　具体的な活動計画についての反省

４～５月の具体的活動内容	活　動　反　省
•あいさつ運動	•あいさつ強化運動時に制作(7月) •下の名前であいさつをする。 •グラフ化で%で表す。
•遠足	•待ち時間の企画などはよくできました。 •ケイドロのルールがわかりづらかったです。 →企画の内容をしっかりと確認
•運動会(企画運営)	•自分達が出した案をしっかりと達成することができました。 •企画などを考える期間を早めれば良かったです。
	•前期生徒と後期生徒の種目を増やせばよかったです。 •生徒会で前期生徒と後期生徒のよさこいの練習を増やしたいです。

６月以降の活動計画の修正と今後の重点活動事項

•あいさつ強化運動時に制作(7月)
•あいさつ運動でグラフで目にみえるようにする。
•朝にタスキをつけて生徒会の活動をアピールする。

•球技大会
前期課程(後期課程…審判　5、6年生…聞き手の逆)
•ドッチボール　ボールリレー(ハードルなど)
後期課程
•バスケ　(板バレー・キックベースボール)
•ドッチボール(先生方も参加)

（３）課題・問題点

・生徒のリテラシー、端末の持ち帰りについて要検討
・校内研修等の場の設定
・情報交換・活用例の収集
・校務支援は本当に支援してくれるのか？

令和５年度中学校教育研究会相双支部第一次研究協議会情報教育部会

福島県立ふたば未来学園中学校

１　本校のＩＣＴ活用事例

（１）学習ｅポータル AI 型教材「Qubena（キュビナ）」の活用

生徒一人１アカウントを配付している。朝の学習の時間や家庭学習において積極的に活用している。

（２）Google Classroom の活用

学級や各教科でクラスを作成し，授業の連絡等で使用している。特に，数学や英語では，板書の写真や資料等を配信し，家庭学習に役立てられるようにしている。

（３）Google Jamboard の活用

各教科の授業で積極的に活用している。考えを共有する場面では，付箋の色分けによってグループ分けができ，便利である。

＜主な使用例＞

・国語科の段落構成を考える課題での使用　・道徳科の考えを共有する場面での使用

（４）Google フォームの活用

委員会活動等，様々な場面で活用している。

＜主な使用例＞

・昼の放送で流す音楽のアンケート　・朝食調べのアンケート

・目安箱のオンライン化

（５）Canva の活用

少しずつではあるが使用場面を増やしているところである。スライドを Canva で作成し発表したり，学級の分担表や自己紹介シート等に使用したりしている。

２　ＩＣＴ活用上の課題・問題点

（１）家庭状況の差異

生徒一人一台のタブレットを配付し，毎日の持ち帰りも許可しているため，Qubena をはじめとした，タブレットを利用した宿題等も教科の中で課している。しかし，家庭のネットワーク状態によっては，そもそも宿題に取り組めなかったり，課題をドライブ等への提出ができなかったりと，家庭状況によって取り組みづらさを感じている生徒がいる。

（２）タブレット自体の性能

同じタブレットを何年も使用しているため，不具合が生じることがある。それが年々増加している。授業の中でも，不具合への対応に時間を取られることが多く，問題点の１つである。

（３）情報モラル診断の結果から

６月に情報モラル診断を実施した。アンケートの結果から，自分専用のスマートフォンを所持している生徒の割合は９３％であり，「あなたはインターネットを使って何をしていますか？」という質問から，音楽や動画の視聴やＳＮＳの利用が高いということが分かった。

診断の結果，最も正答率の低かったカテゴリーは「情報セキュリティ」であり，特に右の問題については，正答率が９％であった。

「いきなりでごめんね。となりのクラスのAだけど、ちょっと直接会って相談したいことがあるんだけどいいかな…家の近くまで行くから住所教えてくれない？」というメールが送られてきました。この時の考え方として適切なものをすべて選びましょう。　**9%**

① 住所を教えて家まで来てもらう
② 学校でAさんに直接確認する
③ メールで理由を尋ねる
④ 何もしない

（正答）
② 学校でAさんに直接確認する
④ 何もしない